

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200097		
法人名	有限会社 福寿荘		
事業所名	グループホーム 福寿荘		
所在地	熊本県八代市井揚町2552		
自己評価作成日	平成22年3月8日	評価結果市町村受理日	平成22年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390200097&amp;SCD=3200">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4390200097&amp;SCD=3200</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の個性を大切に、その人らしく安心して生活できるよう支援しております。利用者の思いがけない一面を発見したり、様々なことを教えられたりと職員も成長させて頂いております。和気合い合いと笑いあり、時々ケンカありの毎日ですが、楽しい家庭的な雰囲気作りに努め、職員、ご家族、地域の方々と一緒に利用者支援し共に絆を深めていこうと努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年は管理者の交代に伴い新にケア方針や体制を見直し、新規の職員採用と大変な期間であったと推察する。新管理者の方針を、全職員が目標として共有し、理想のグループホーム作りに対応されていた。看護職員の退職により看護師不在となったが、訪問看護ステーションと委託契約し、24時間の看護体制を確保。入居者の健康管理に不安を生じさせない迅速な対応が行われている。また服薬介助時には3回確認する等、誤薬防止に取り組み、医学・看護の分野の職員教育に、熱心に取り組まれていると感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成21年10月に理念を具体化し、全職員が共有するように全体会議で唱和したり、見るところに掲示したりしている。実践につながるように努力中である。	理念の見直しで分かりやすい文言になり、徐々に職員の理解が進み理念に沿ったケアが実践されてきている。管理者は、日々のケアの場面で理念を反映した実践を丁寧に指導、その効果が徐々に表れてきているように感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、運動会等の地域行事にも積極的に参加している。近所の方に野菜をいただいたりすることもあるが、日常的な交流まではいたってない。	町内会に加入し、地域の運動会には職員が競技に参加、入居者も応援に出向き、住民との交流が図られている。ホームでの敬老会には踊りのボランティアがあったり、餅つきには地域のボランティアも参加、一緒に餅つきを楽しまれている。農家から野菜のプレゼントもあるなど、地域に根付きつつある。	町内のサロンへの参加や、ホームの行事に招待する等、地域住民との交流の機会が作られることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて機会を作っていない。運営推進会議で町内会長や民生委員の方に協力を仰ぎ、事業所として地域貢献ができるように声をかけていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や行事予定・評価への取り組み状況等について報告している。地域の行事予定を教えてもらい活動に生かせるように努めている。	活動報告はたくさんの写真を提示し、入居者の暮らしぶりを紹介。民生委員や老人会長等から地域の行事等の案内があり、お互いの情報交換の場となっている。餅つきの行事については誤嚥を心配する発言がある等、意見交換により、ホーム運営へのアドバイスが得られている。	常時ではなくとも、包括支援センターや地域消防団等にも参加をしてもらえると、多様な情報やアドバイスが得られると考える。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者に参加して頂いており、日々の活動や行事予定・評価への取り組み状況を伝えている。また、制度上の疑問が生じた場合は意見を聞いたりしている。	市の担当者には運営審議会に参加を得ており、ホームの状況を伝え、協力を得られるように努力し、気軽に相談出来る関係が築かれつつある。	地域包括支援センターとも協力関係を築き、地域のニーズに沿った支援が出来ると更に良いと思われれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびすべての職員が理解しており取り組んでいるが、夜勤帯は1人のため、19時半以降は玄関に施錠する。また、厨房の扉も開放するようしており自由に出入りできるようにしている。	問題意識を持って、ケアのひとつひとつを見直し、束縛になっていないか検討が行われ、束縛が疑われる対応は、安全を確保する方法を見出しつつ、入居者が自由に過ごされるよう支援している。冷蔵庫を頻繁に開ける人のため、庫内の食品配置を工夫し、自由に冷蔵庫を使えるようにし、心の安定が図られている。	
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したりして、虐待が見過ごされないよう注意を払っているが、定期的な内部研修を実施し防止に努めていきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員への制度の周知や学習については未実施のため理解できてない。学ぶ機会をもち、支援できるようしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、納得して頂いた上での利用開始となっているが、利用者本人への説明は家族にゆだねている。アンケートによると十分理解されてない家族もおられるようなので、改定の際は十分な説明を行っていきたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置・家族会の開催・アンケートの実施などで意見や要望を聞き出そうと努力している。また、面会時に要望がないか聞いたりしているが面会が少なく、意見が聞き出せてない。	今年度始めて家族会を開催。年間3回開催し、家族だけでの話し合いの時間も設けたいと計画。第1回目は、受診時の家族の同行依頼と看護体制等説明し、家族の不安や質問要望等の検討が行われている。家族の訪問時や電話連絡時等機会ある毎、家族とのコミュニケーションに努めている。アンケート調査の実施もあり、熱心な取り組みが見られた。	ホームの行事や食事会等と組み合わせ家族会を開催することで、家族の参加も多くなると考えられます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議等で意見や提案を聞き、なるだけ反映させているが、すべての意見を反映できてない。	毎月の全体会議で職員から意見を聞き、ケアの方法を話し合い、サービスの向上に反映するように努力している。今回の自己評価も、職員全員で取り組んでおり、全員で話し合う雰囲気が作られてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務に入ること、勤務状況や個々の努力や実績を把握している。また、職員を増やし労働時間を少し変更し短くしたり、交付金を利用し給与水準をあげたり等職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部研修を奨励している。勤務の調整や費用負担を法人ですること、研修を受ける機会の確保に努めている。また、研修報告会を開催し他の職員の研修参加への意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員を地区部会の実施する研修会や懇親会参加を促し、意見交換をしたりアドバイスをうけたりして、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から要望が聞けないことが多いので、家族の要望が主になっている。日頃の生活の中で、声かけや表情確認、会話、傾聴することにより要望に気づき、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在家族が困っていること、特に施設入居を考えるに至った経緯や現状を時間をかけてしっかり把握するようにしている。また、情報不足がわかった時点であらためて家族に聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける時点ですでに家族は入居についての思いが強い。必要としている支援が見極められてないし、他のサービス利用の説明等は出来てないが、真に入居が必要かの意向を掴むようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見つけ出し、やって頂く様に努めている。また、職員と一緒に食事したりお茶を飲んだり、カラオケを楽しんだりすることもあるが、業務優先になっている時が多く見られる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が月1回の家族が多く、コミュニケーションがとれてない。面会を増やすようお願いしたり、病院受診をお願いしたり、状況を報告したりしている。もっと家族の思い・要望等を取り入れコミュニケーションを取れるようにしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係等の情報が少なく支援出来てない。家族の面会時に話ができるよう雰囲気作りを心掛けている。お墓参り等の支援ができるようにしていきたい。	家族や親戚の訪問が少ない状況であったが、運営審議会や家族会等で、日頃の様子やエピソードを伝え、認知症への理解を深めてもらうように努め、徐々に訪問が増えつつある。	家族の協力を得ながら、墓参りや自宅訪問等、馴染みの関係継続の支援が行われることを期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者同士の関係を把握し、喧嘩や孤立時にはマンツーマンで対応し様子観察したうえで、他の利用者の中に誘導したりしているが利用者同士が支え合えるような支援まではできてない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一時的な入院の際は、フォローしたり、相談や支援出来ているが、他施設入居等の場合は支援できてない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の行動や言動を見極め、できるだけ意向に沿うようなケアを心掛けているが十分できてない。	日頃の生活の中で、入居者の意向を把握するよう心がけている。常に言葉や表情・動きに注意し、思いを汲み取るよう努めており、思いに沿ったケアを提供することで、重度の認知症の人でも穏やかに変化した例もある。調査当日も工事関係者の出入りが多く、不穏になりがちな入居者に細やかに対応される様子が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネが家族に情報を聞いたり、職員が利用者との会話の中から把握したりしている。それを、個人記録に記入し、職員が情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、表情や様子を職員間で情報交換して把握に努めている。また、出来ることに視点を向け、習慣や生活リズムが継続できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングで話し合いはしているが、全体的に意見やアイデアが少ない。カンファレンス等の開催によりいろんな意見がでるようになったので、今後の介護計画に反映できると思う。	介護支援専門員を中心に、家族との話し合いが行われている。職員が得た情報は個人記録に残し、カンファレンスで検討しており、チームで介護計画が作成されていることが確認できた。	今後カンファレンスの定期開催や時間の確保を行う方針であり、より充実した介護計画作成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に記入し、職員は利用者の状態を共有しながら実践しているが、記録の書き方が様々で、十分と言えない。記録の充実を図り実践や介護計画の見直しに活かしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	鍼灸師によるリハビリや訪問歯科による口腔ケア等は本人や家族の状況を考え提案し、取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の民生委員や各会長職の方々とは連携は取れているが、地域資源の把握ができておらず、協働できてない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。定期受診に関しては、家族に協力をお願いするように変更したが、往診が不可能なかかりつけ医もあり、今後の重度化に伴い検討が必要である。	かかりつけ医への定期受診は、ホームで対応してきたが、今年度は医師の説明を聞いてもらうように、家族に付き添いを依頼している。家族の事情で不可能な場合も、家族とのふれあいの機会ともなることを説明し、理解を得ていく方針。介護タクシーを利用したの通院者は往診に替えたり、職員が同行できない時は、文書で状態や暮らしぶり等情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が平成21年7月で退職した為、不在であった。平成22年2月より訪問看護と契約し定期の健康管理と24時間連絡体制をとり、介護職が相談できる体制ができ、適切な受診や看護が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・家族が安心して入院生活が送れるよう支援し、退院時には病院関係者と連絡を取り、退院後の生活を安心しておくれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	平成22年1月に初めて家族会を開催し重度化や終末期に向けた方針や事業所でできることを説明した。これから個別で話し合う機会を設け方針を共有していきたい。	現在看護職員が不在の状況で、訪問看護師と連携し24時間の看護体制を整えている。重度化や看取りには、ホームとして限界はあるものの、できる限りの支援を行っていく方針。これまで看取りを3例経験しており、その経験を踏まえながら、医学や看護の勉強会を実施し、職員体制を充実させていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習に参加しているが、定期的に訓練を行ってないので、実践力が不十分である。定期的に勉強会を開催し実践力を付けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火避難訓練を実施しているが、勤務の関係で年1回しか参加できない職員もいる。全職員が身につけることができるよう訓練していく。また、地域との協力体制ができてない。	年間2回昼間と夜間を想定して実施している。次回の訓練実施予定には、隣接する有料老人ホームと合同で行い、消防署の指導も受ける計画。スプリンクラーを設置しており、近隣の住民にも災害時の支援協力を依頼するなど、災害対策が講じられている。	今後、地域消防団の協力依頼を行う予定であり、住民との協力関係が深まる事が期待できる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりにあった声かけや対応をしているが、申し送り時や、職員間の情報交換時の気遣いに欠ける部分も見られる。プライバシーに関して職員の意識向上が必要。	知識だけの理解でなく、心から入居者を敬い大切に思うよう、職員育成に努力している。介護場面での指導やカンファレンス等で職員に考えてもらうように働きかけており、トイレのドア開閉や言葉かけなど、その効果が表れてきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように声かけしたり、話したりしている。本人の思いや希望を聞き出せるような声かけや関わり合う時間を積極的に作っていく工夫が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせて朝食の提供をおこなったり、昼間の過ごし方も希望にそって支援するよう努力しているが、職員の勤務の状況で職員の都合が優先してしまう時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は職員が気をつけて声かけしたり、顔を拭いたりしているが、入浴時の衣類の準備は職員が単独でおこなっているため、その人が着たい衣服の提供にはなっていない。職員の判断でおしゃれな服を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を判断し、野菜の下準備や片付けの一部をして頂いている。また、利用者が食べ易いようにキザミ食やミサー食もとりにいれている。	調理経験豊富な職員が献立を考え調理し、季節野菜を多く取り入れ、健康に配慮した食事が提供されている。調理や後片付けは、入居者の表情を見ながら依頼する等、楽しく参加してもらうよう配慮されている。食事摂取は、自立支援に留意し、自助具やこぼれにくい食器を使用し、じっくりと見守る支援が見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は記録に残し確保できるようにしている。食事量は一人ひとりの状態を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の能力に応じた口腔ケアをしているが、1名の方だけ拒否が強くできてない。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを職員が把握しトイレ誘導をおこなっている。また、声かけを工夫したり、細かいサインを見落とさないように支援しているが、おむつの使用は増えている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛けでトイレを促し、リハビリパンツと尿取りパットで対応できるよう支援している。その努力の結果、尿取りパットの使用量は増え、オムツの使用量が減少している。トイレに行きたがらない人には、表情を見ながらタイミングを察知して声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やひじき等の食物繊維を多く含む食材を使ったり、牛乳やヨーグルトをデザートに提供している。適度な水分補給や体操により体を動かす機会が多くなるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めて入浴して頂いている。個々にそった支援ができてない。これからの検討課題である。	週3回、午前中の中の入浴を実施しているが、夜間入浴も含めて、自由に入浴できるようにと検討している。入浴拒否の人には、タイミングの良い時や好きな時に快く入浴出来るようにしたいと考えている。ゆず湯や菖蒲湯等、季節を楽しんだり、体を洗う時も寒くならないように足浴しながら行うなど工夫が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、自由に休んで頂いている。また、夜間は冷暖房のこまめに調節したりして、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等については理解できてない。きめられた服薬の支援は、誤訳がないようチェックできるように努めている。また、薬の追加や変更に関しては、連絡帳に記載し情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・カラオケ・カレンダーめくり・裁縫・調理の下ごしらえ・包丁研ぎ等の支援や、季節の行事で外出したりして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の中での外出はあるが、一人ひとりの希望にそってない。本人の希望や家族や地域の人々と協力しながら外出できるように支援していきたい。	月1回は行事として初詣やひな祭り見物、バスハイク等、全員が外出できる機会を作っている。外出時は買い物や食事をしたりと楽しみは大きい。ホームは田圃に囲まれ、民家が少なく、商店等も近くには無い状況にあり、散歩の機会は少ないようである。	あぜ道の散歩は、農業体験者には昔を思い起こし、風景に四季を感じることができる。短時間でも近隣の散歩ができるよう、職員配置を工夫されると良いと考える。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるように支援している利用者は1名のみである。他の方は事務所で管理している。お金の所持や使うことの支援はできてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、対応しているが、自ら電話できる利用者はおられない。手紙のやり取りができるように支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからトイレや居室に行く廊下に冷暖房がなく、利用者・職員にとってトイレや廊下が不快な温度になっている。エアコン導入を代表者に提案し検討してもらっている。共有の空間は、季節の花を飾り季節感を採り入れている。	リビングの畳みのスペースはソファで囲まれ、食後のひとときをゆっくり過ごす姿が見られた。玄関の横には程良いスペースがあり、観葉植物が置かれ、安らぐ空間になっており、家族との語らいや一人のんびり過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中での独りになれる場所がない。廊下の談話コーナーをもっと活用できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れたものや好みを活かして、本人が居心地良く過ごせるように工夫をお願いしているが、持ち込みが少ない。職員もカレンダーや本人の写真を飾ったり工夫しているが、寝るだけの部屋が多い。	家族へ馴染みの物の持ち込みを熱心に勧め、少しずつ持ち込まれている。馴染みの物が少ない部屋には、思いでの写真や誕生日の記念の写真入り色紙、カレンダーが飾られ、少しでも居心地の良い部屋にしようという心遣いが見られる。	家族への依頼と共に、入居者と一緒に作った小物を飾る等、更なる努力を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	『便所』などの張り紙はしてあるが、全体的に表示がすくない。一人ひとりの「できること」「わかること」を活かしてない。		